令　和　元　年

# 第２回総合教育会議会議録

（開会　令和元年10月11日）
（閉会　令和元年10月11日）

岐阜県可児市教育委員会

令和元年10月11日午後４時00分開会

**出席者**

冨田成輝君（市長）　　篭橋義朗君（教育長）
生駒隆昌君（教育委員）　　伊藤小百合君（教育委員）
丹羽千明君（教育委員）　　小栗照代君（教育委員）
纐纈新吾君（事務局長）　　石原雅行君（教育総務課長）
堀田　誠君（教育研究所主任指導主事）

**教育委員会事務局職員**

服部賢介君（教育総務課総務係長）　　圓藤　亨君（教育総務課総務係）
中水麻以君（教育総務課総務係）

開会　午後４時00分

開会宣言

○　**事務局長（纐纈新吾君）**　令和元年度第２回目の総合教育会議の開会を宣言。

あいさつ

○　**市長（冨田成輝君）**　第２回目の総合教育会議ということで、きょうの議題の次期可児市教育振興基本計画についてご意見をいただきたい。

議題

○　**教育総務課長（石原雅行君）**　「笑顔の学校」づくり（案）について説明。

教育振興基本計画策定委員会を６月、９月に実施した上で策定した素案である。

１ページが６月に改定した教育大綱、２ページが計画策定の趣旨と本市における教育の現状と課題、３ページが中長期の方針と目指す教育の姿と基本理念、４ページが計画の体系、５ページが施策の体系図となる。

次いで６ページから12ページの上段までが基本目標Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのそれぞれの具体的な施策である。12ページ中段以下が全体の推進体制、13ページが各施策の目標と参考指標となり、14、15ページが用語解説、16、17ページが可児市教育大綱の可児市教育振興基本計画への反映状況である。

○　**市長（冨田成輝君）**　教育委員の皆さんの意見や、質問、説明内容の確認があればお願いしたい。

○　**教育委員（生駒隆昌君）**　一番もとになるのは、「マイナス10カ月から　つなぐ　まなぶ　かかわる　子育て」だと思われるため、計画策定の趣旨や概念図に、そういった文章も入れてほしい。それをもとに子どもの命を守るとか、笑顔の学校づくりができていくと考える。

また、大綱の５つの目標に向かうためには、学校教育と子育て、文化、青少年、生涯学習分野などとの連携だけではなく、もっと互いに深くかかわりあっていくという部分を大切にしたらどうかと考える。

○　**教育総務課長（石原雅行君）**　マイナス10カ月というのは今入っていないため、含めていければとは思う。

○　**教育委員（伊藤小百合君）**　基本目標Ⅱの中にＩＣＴ活用の推進という項目がある。去年とおととしに学校を訪問した際、若い先生たちの中ではＩＣＴを活用して子どもに勉強を教えたいという意見や、授業の準備時間の節約にもつながるという話があったため、順次進めていただきたい。

○　**市長（冨田成輝君）**　オーストラリアに行った子どもたちもそこでの授業を見てＩＣＴが随分進んでいたことに驚いていた。30年前からオーストラリアは実施しており、日本はおくれていることは間違いない。あとは費用の問題である。

○　**教育長（篭橋義朗君）**　費用面もだが、教える先生が使いこなすのに時間がかかる。

○　**市長（冨田成輝君）**　ＩＣＴを使おうと思うと、今の日本の授業の仕方を大きく変えないと意味がないかもしれない。

オーストラリアではＩＣＴを使う教育の目的は、自分で考え自分で答えを探すことで

あり、その訓練をしている。子どもたちは出されたテーマに沿ってタブレットを使って検索して探し、先生はアドバイスしながら回るというように、先生は教えるというよりも子どもたちが考えることをサポートする体制である。教壇にいたら何を検索しているかわからないため先生は教壇をおり、タブレットを使うため黒板が要らなくなるというように教え方が大きく変わったと。

日本の教育プログラムがＩＣＴを活用しきれるのか、何を教えるのかというところまでおそらく変わってくる。間違っても大学受験をやらすための授業ではなくなる。

そのぐらいの覚悟を持ってやらないといけないかもしれない。

○　**教育委員（生駒隆昌君）**　そうなると、コミュニケーション能力といった部分も変わってくるのではないか。

○　**市長（冨田成輝君）**　今はまだその段階までいっていないので、教えやすくするためにということではないか。

○　**教育長（篭橋義朗君）**　機器も新しいものが出てどんどん変わっていくため費用もかかる。

○　**市長（冨田成輝君）**　ＩＣＴとはそういうものである。導入すればいいというものではなく更新していかなければならないため、どんどん変えていく覚悟がないといけない。

その分、何をやめるのか、やめられるものがあるのかということ。ＩＣＴはもう世界的には常識になっている。

○　**教育委員（生駒隆昌君）**　情報社会で生きるための最低のツールとなってきた。

○　**市長（冨田成輝君）**　ただ、本当に義務教育に必要なのかということもある。義務教育で本当に教える必要のあることがなんなのかをもう少し議論しないといけない。

○　**教育委員（丹羽千明君）**　限られた予算の中で、モニター等を入れることを考えていただいている。ＩＣＴのきっかけになればと思う。

計画については、最初は長いと思ったが一字一字が意味のある言葉であり、説明を受けたらよく内容はわかったため大変いいかと思う。

ただ、基本目標Ⅰの「生きる力」の基礎の育成と、基本目標Ⅱの未来社会を切り開くための資質・能力の育成の違いが何かということがわからなかった。Ⅰが基礎で、Ⅱがそれを高めるためのツールとして書いてあるのかとは思うが。その他は内容的に問題ないかと思う。

○　**教育総務課長（石原雅行君）**　今の基本目標Ⅰ、Ⅱはわかりにくい部分だと思うが、今言われたとおりⅠを基礎として、ホップ・ステップ・ジャンプのステップ・ジャンプの部分、今後の人生100年時代を生きる力をつけるための部分がⅡとなる。

○　**市長（冨田成輝君）**　この基本目標Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの区分は、確かに難しいと思う。若干無理やり整理したところがあり、例えばＩＣＴ活用の推進はⅡなのかⅢなのか。両面あるから難しい。

○　**教育委員（丹羽千明君）**　16、17ページの基本計画への反映状況の中でも、ふるさと教育とかキャリア教育も重複している。キャリア教育が３カ所に出てくるが、どれにもあてはまるということか。

○　**教育長（篭橋義朗君）**　ふるさと教育、キャリア教育、主権者教育は、ふるさとの

ことを知ってほしいという意味で共通した言葉になる。

○　**市長（冨田成輝君）**　義務教育でここまでやるのかと正直思う。先生に負担がかかり過ぎており、小学校、中学校で教えないといけないことをこれだけ詰めたら子どもも先生も余裕なくなって当然だと思う。

○　**教育委員（小栗照代君）**　「笑顔の学校」づくりの案を読んで一番自分が心に残ったことは、２ページの本市における教育の現状と課題である。少し前に民間のアンケートで同じようなアンケート結果が出ているのをたまたま拝見したが、子どもを育てるに当たり、個性が豊かで意見がはっきり言えるとか、向上心、チャレンジ精神のある、そういう子どもが育つような環境、教育を自分もしてこれたらよかったと思っていたため、これらを踏まえて可児市の方向性を決めていただいているということがよくわかった。可児市だからこそ健全に子どもを育てることができる環境があると伝えていきたい。

○　**市長（冨田成輝君）**　この計画は、基本的に文科省の教育方針に沿わざるを得ない部分もある。ただ、委員が言われた部分が実は可児市がやりたいことである。簡単に言うと子どもたちを学校でもっと遊ばせてあげたい気がする。今の子どもは自分と違う年代の人と上手く話せない子が多く、自分と同じ世代とは話してもちょっと年上の人とは話せない、そういう能力がない。なぜかというと、なれていないから。そのため、自分とは違う人と話せる力や臆せずに自分の意見が言える能力を育てる環境が大事だが、義務教育の中にはそういったことは書いていない。

○　**教育長（篭橋義朗君）**　当たり前のことではあるが、中長期の方向性として今回「子どもの命を守る」と記載した。国の計画にはないが、この時代これを書かないといけないと思い、入れたものである。これは教育委員会の計画ではあるが、今の可児市の状況でいくと、市長部局と連携し一体的にやっていかないと子どもを守れないため全部の部局が子どもの育成と教育をやっていくという意識を表現した。スポーツや文化の連携も含めだが。

○　**教育委員（小栗照代君）**　この中長期の方向性について、「子どものサインを見逃すことなく」とあるが、サインを見逃さないというのは対処法のような気がして疑問に思う。中長期の方向性や教育ということを考えると、子どものサインを見つけて対処するというより、もっと事前に、サインさえでないような長期的な対応をする必要があるのではないか。

○　**教育長（篭橋義朗君）**　子どもの様子をよく観察して把握できる教師ばかりであればいいが、子どもからも悩みや困ったことがあればいつでも表明できるような学校、教員を目指すということを表現した。

○　**教育委員（小栗照代君）**　この中長期の方向性のところで、そういうニュアンスが受け取れなかった。

○　**市長（冨田成輝君）**　受け身に見えると。確かにサインを見逃さないのは大事だけど、そもそもサインが出ないようにしないといけないと。また、このサインという意味も、出ていないサイン、サインを出していないんだけどサインを出している。そこにどう気づくか。ただ、一番気づいているのは子ども同士であるため気づいている子どもたちが我々にそれを伝えてくれる、行動をとれるということが重要。

○　**教育委員（生駒隆昌君）**　どう伝えるか、そういう行動をとれる環境づくりが必要である。

○　**教育総務課長（石原雅行君）**　検討します。

○　**市長（冨田成輝君）**　部活は書いてあるか。

○　**教育委員（丹羽千明君）**　10ページの施策２の一番下にある。

制度がまた大きく変わったため、今後部活動をどう捉えて運営していくか、もっと議論しないといけない時期に来ていると思う。外部指導者の導入とも書いてあるが、この内容についても議論の必要があると思う。

○　**教育長（篭橋義朗君）**　部活動の方向性はこのとおりやるが、議論すると体育・スポーツ関係者がジュニアスポーツをどうするかということになる。体育連盟に関する部分はそこまで書き入れられなかったため、こういう形になるが、大きなテーマとして検討が必要となる。

○　**教育委員（生駒隆昌君）**　後期計画では外国籍の支援という言葉がたくさん出ていた。次の計画では多文化共生教育の推進という形になっている。

○　**市長（冨田成輝君）**　ここには書ききれないが、これからが大変でありその兆しが出だしている。特に５年後から子どもを連れてこれる外国籍労働者が増えてくるためその時にどう対応するか。

県教委には話をしているが、外国籍の方は苛酷な労働環境で働いている。岐阜市にどれだけ支援センターをつくっても行けない状況にある。今も永住権などいろんな問題も岐阜市まで行かないといけないが行く暇がない。県にも伝えているが、例えば東濃地域の拠点として可児市を指名するとなったときに、そこで全部できるような権限と財源を明確にしてくれと。可児市民の税金で他市の外国人の面倒をみることはおかしいため、きっちり拠点化して権限と財源を確保してくれると効率的である。

○　**教育委員（生駒隆昌君）**　雇用している企業の協力というのはどうか。

○　**市長（冨田成輝君）**　今回の法改正では、海外から出る前に基本的な日本語教育と教養について試験をし、受かった者しか入れてはいけないとなっている。企業の義務は厳しくなるが、どこまで守られるか。

文科省は、外国人はわが国の義務教育への就学義務はないとしているが、日本国憲法の趣旨は外国人も含め日本に住む人は等しく教育を受けるものであると考えるため、国が責任を持って制度をつくる必要がある。

○　**教育委員（丹羽千明君）**　学校適正化ということで、外国籍児童の増加を含め、今後、児童・生徒の数の推移をしっかり見守っていくことが大事になる。

**閉会の宣言**

○　**市長（冨田成輝君）**　令和元年第２回総合教育会議の閉会を宣言。

閉会　午後５時02分